

～「書く」ことを通して「人権」について考えてみませんか～

# 第45回わたしからの人権メッセージ

# 作文募集

応募期間

2024 7月1日(月)～9月2日(月)

(令和6)年

応募者全員に  
参加賞を  
進呈します。

## テーマ

- ◆同和問題 ◆女性の人権※ ◆障がい者の人権
  - ◆外国人の人権 ◆子どもの人権 ◆高齢者の人権
  - ◆性的少数者に関する問題
  - ◆平和と人権 ◆環境と人権
  - ◆感染症(ハンセン病問題・HIV感染・新型コロナウイルスなど)と人権
  - ◆犯罪被害者やその家族の人権
  - ◆インターネットと人権
  - ◆その他さまざまな人権について(災害と人権、アイヌの人々、ホームレスなど)
- ※デートDV(交際相手からの暴力のこと)、セーフシティさかい(女性や子どもをはじめ、すべての市民の安全・安心に向けた取組)を含む。

## 応募対象

堺市内に在住・在学・在勤の方なら、どなたでも応募できます!

## 応募方法

団体応募には「応募用紙」が必要です

- 団体応募(学校等の団体で応募される場合)**  
学校等の団体ごとにとりまとめた作文と、応募用紙を一緒に下記応募先に郵送または持参(市立小中学校は通送でも可)してください。  
※応募用紙は下記「応募・問合せ先」ホームページからダウンロードできます。  
※堺市立学校園の方はC4thの配布文書(人権推進課)もご利用いただけます。
- 個人応募**  
★応募する前に必ず本人から応募の承諾を得てください。また、特選受賞の際は作品が作品集等に掲載されることへの承諾も得てください。

## 記入方法

- 400字～1200字程度(400字詰め原稿用紙またはます目入り用紙を使用してください。)
- たて書き(パソコンによる印字も可)
- 1行目に題名、2行目に(在学の場合は学年と)名前、題名の右(枠外)に作文のテーマを記入してください。

## 審査

- 審査会にて、特選20編と入選30編を選びます。
- 特選及び入選の方には11月に通知します。

## 特選作品の公表

- 掲載にあたっては、作文の趣旨を損なわない範囲で一部修正する場合があります。
- 公表にあたっては、原則として名前を、在学の方は学年も掲載します。

## 応募・問合せ先

〒590-0078 堺市堺区南瓦町3-1

堺市人権教育推進協議会(堺市役所人権推進課内) 「わたしからの人権メッセージ」係

電話 072-221-9280 FAX 072-228-8070

ホームページ <https://www.jinkenkyo.jp>

## 表彰式・作品発表

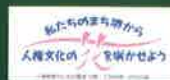
特選作品に選ばれた20名の方を「人権を守る市民のつどい」(12月上旬開催予定)で表彰します。  
代表4名の方には、作文を発表していただきます。

## その他

- 応募者全員に参加賞を進呈します。
- 応募は個人のオリジナルで、未発表のものに限ります。(ただし、2023年9月2日以降に書かれたものとします。)
- 特選及び入選の方には賞状と記念品を贈呈します。
- 特選作品は特選作品集や当協議会ホームページなどに掲載します。
- 応募作文の著作権は、当協議会に帰属します。
- 応募作文は返却しません。
- 応募者の個人情報(本事業の目的以外)には使用しません。

主催 堺市人権教育推進協議会

後援 堺市・堺市教育委員会



2023  
ねん ぶ  
年度

# 受賞作品より(抜粋)

## 命のバトン (小学生)

夏休みに、長崎のおばあちゃんの家で、一緒に千羽づるをおりました。そのときに、七十八年前の話をおし教えてもらいました。七十八年前の八月九日、私のひいおばあちゃんは、長崎の香焼という島に住んでいたそうです。この日、用事があって、船で長崎の本土に行く予定でした。ところが、のる予定の船にのりおくれしてしまいました。あついで、次の船を待っていると、海の向こうがピカッと光ったそうです。十一時二分に長崎に落とされた原子爆弾でした。ひいおばあちゃんも、予定通りの船におくれずにのっていたら、命をうばわれていたかもしれないそうです。そして、その三年後におばあちゃんが生まれ、母、私へと命のバトンがうけつがれて、今の私があります。でき上がった千羽づるを、おばあちゃんと一緒に長崎原爆落下中心地に持っていき、手を合わせて、心の中でいのりました。

## 「躰」という名の仮面 (中学生)

小学校のころ、両親とで出かけた先で、大声で子どもを叱る女性を見かけた。女性のあまりの剣幕に、子どもはおびえ、泣いていた。子どもの人権を考えると、真っ先にこの時のことが頭に浮かぶ。虐待だとまでは考えたわけではないが、誰かが助けるべきだと思った。だが、私はどうすることもできず、とても悔しい思いが心に残った。「親が子を叱るのは躰」との考え方が世間に根付いており、「教育」なのか、単なる「暴力」なのか判断できないことがある。「子どものため」という仮面の下に行われる暴力から、本当に子どもを守るには、小さなことでも通報できる環境と、一人一人の判断力を育てていかなければならないと思う。

## 阻む壁 (高等支援学校)

障がいがあるから出来ないと思わないでほしい。障がいがあるからこそ「私」という個性があり、その分他の人より努力が出来ると言いたい。私は聴覚障がい者なので、コミュニケーションが出来ない、話が通じないと世の中から思われていることが多いように感じる。私は口の形を読み取りながら、補聴器を通して声を聞いてコミュニケーションを取っている。この二つの条件が合えば相手は何を言っているかは、ほぼ理解できる。中一くらいから本格的に卓球の練習に通い始めたが、「聴覚障がい者だから」という理由でしかたなく練習に付き合ってくれているように感じた。聴覚障がい者とはコミュニケーションが出来ないと思いこんだり、一緒に練習する方法がわからなかったりなどの理由で避けられている人が多い気がした。世の中に聴覚障がい者に対する理解が浸透していないのなら、自分なりにアピール手段を考えて、「おっ。この人とやりたい。」と思わせる人間になりたい。

## アボジ(父)オモニ(母)の思いを胸に歩み続ける (成人)

私は大阪府和泉市で在日朝鮮人二世として戦争中に生まれました。五歳の時に戦争が終わり、それからしばらくして和泉にできた朝鮮学校に入学しました。アボジは私が11歳の時、亡くなりました。それからのオモニは大変でした。その前の年に私のふたごの妹たちが生まれただけだったのです。アボジがいなくてもオモニと9人兄弟の家族は助け合って暮らしました。やがて10代の後半になったころにもっと仕事をしなければならなくなり、ヘップサンダルの工場に通うようになりました。ベンゾールという接着剤のにおいが体に悪いことは知っていましたが、働くことに必死だったので気にもかけませんでした。その仕事は23歳で結婚する時まで続けました。結婚してからも働きづめでした。仕事の上でも漢字を読んだりすることは何とか出来ました。朝鮮学校でも教えてもらったし、本を読むのが好きだったので、自分でも調べました。でも、難しい漢字はどうしても書けるようになりません。勉強が途中までだということがずっと気になっていました。2年前に殿馬場中学校に入学しました。なかなか歳を取ってからの勉強は大変です。今、嬉しいことはローマ字が読めるようになってきたことです。看板を見てTOYOTAとかHONDAと書いてあっても自分には関係のない文字だと思っていました。しかし、学校でローマ字を習って「ああ あのトヨタのことか。」と思うと、とても嬉しくなります。今の調子で色々なことを勉強し、学校を楽しみながら長生きしたいと思います。